

残席わずか

委託プロジェクト管理と受入テストの勘所【オンラインライブ】（4125044）

外注したソフトウェアを開発ベンダーから受け入れて、実際に稼働させる前に行う受入テストは、どこまで行えば良いのでしょうか。ソフトウェア開発の発注者側の目線に立って品質管理のポイント・受入テストの勘所を解説します。

開催日時	2025年7月22日(火) 9:00-16:00ライブ配信
JUAS研修分類	要件定義から運用(WF型要件定義・設計・開発・テスト)
カテゴリ	IS導入(構築)・IS保守 専門スキル
講師	石原一宏 氏 (バルテス・ホールディングス株式会社 品質ビジネスイノベーション部 部長 兼 首席研究員) 年間2,000名を超える開発エンジニアにテスト・品質を教えるセミナー講師。 テスト技法の開発・研究・社外・社内の技術研修・教育業務。プロセス改善コンサルティング業務に従事しつつ、ソフトウェア検証業務に携わる。 開発者として大阪大学 土部謙弘教授とテストケース生成ツール「Unit44」を共同開発。 京都工芸繊維大学 水野修教授と、T-DA5の高像認識機能を共同開発・共同特許申請。 著書に『いちばんやさしいソフトウェアテストの本』、『ソフトウェアテストの教科書』。 PMI認定プロジェクト・マネジメント・プロフェッショナル(PMP)。JSTQB認定Advanced Level テストマネージャ。
参加費	J U A S 会員/ITC : 35,200円 一般 : 45,100円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信(指定会場はありません)
対象	システム開発を委託しているクライアントの管理者の方はもちろん、システム開発をする側の開発者・管理者の方にもおすすめです。 参加
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

ライブ配信 (Zoomミーティング) [【セミナーのオンライン受講について】](#)

■テキスト

開催7日前を目途にマイページ掲載

■開催日までの課題事項

特になし

受入テストは、ソフトウェア開発を外注するユーザー企業にとって、頭の痛いテーマの一つです。

テストは実施したいが、受入テストにあまり時間はかけられない。

しっかりテストはしたいが、開発ベンダーと同じようなテストをしてもムダになる。

外注したソフトウェアを開発ベンダーから受け入れて、実際に稼働させる前に行う受入テストは、どこまで行えば良いのでしょうか。

ポイントは、受入テストでどんなリスクを軽減させたいのか、この考えがベースになります。

また一方で、ソフトウェア開発を外注する際で重要なことは、受入テストだけではありません。

開発ベンダーに、開発して欲しいソフトウェアを的確に伝えるにはどうしたら良いか。

開発ベンダーに、高品質な成果物を納品してもらうためには、発注者としては何を押さえるべきなのか。

本セミナーでは、ソフトウェア開発の発注者側の目線に立って品質管理のポイント・受入テストの勘所を解説します。

■主な内容

1 ソフトウェア品質管理のポイント

(1) 品質管理のポイント

品質を分析するためのフレームワーク

2 委託プロジェクト管理の勘所

(1) 品質計画の策定と実施

レビュー計画

テスト計画

V字モデル、W字モデル(テストファースト)

(2) 開発ベンダとの意思疎通

課題管理とリスク管理

開発計画とQuality Gate

欠陥分析とフィードバック、フォードフォワード

3 受入テストの勘所

受入テストの骨格

受入テストはどこまで行うか？

受入テストの指針（例）

「目的」と「手段」の連鎖

■参加者の声

分析の具体的な例などがあり、分かりやすい。

受入テストの概念から理解できた。

これまでは漠然としたイメージでしかなかったが、論理的に理解することができた。